

「鹿児島を戦場にさせない県民の会」設立の呼びかけ

鹿児島県民の皆さん。

残念なことに、憲法九条が空文化し、そして戦争が現実のものとなってきました。

2015年の安保関連法と集団的自衛権、特定秘密法、共謀罪、防衛装備品移転、敵基地攻撃能力……。政権は着々とアメリカと一緒に戦争できる準備を進めてきています。ついに自民党安全保障調査会は中国を「安全保障上の重大な脅威」とし、「防衛費を2倍に」と言い出しました。憲法前文や九条なども風前の灯です。

鹿屋には無人偵察機という攻撃機の配備、馬毛島には米軍空母を機能させるために欠かせないFCLP、そして自衛隊巨大基地建設。奄美にはミサイル基地と弾薬庫。沖縄本島の米軍基地の強化と宮古、与那国へのミサイルと弾薬庫配備。1972年の「日中国交回復宣言」を無視して、安倍元首相は「台湾有事は日本の有事」とまで発言しました。不平等な日米地位協定を対等な関係に戻そうとしないばかりか、南西諸島を「第一列島線」に位置付け、米国本土を守る防衛線にしようとしています。

鹿児島県民の皆さん。沖縄戦の教訓は「軍隊は住民を守らない」です。

日本兵はガマの奥に潜み、泣く子を殺し、住民を入口に配置しました。島くとうばの住民をスパイとして殺戮しました。戦争での住民の犠牲は、鹿児島市の空襲や広島・長崎の原爆など、言語に尽くしがたい悲惨をもたらしました。ロシアのウクライナ侵攻も戦争の悲惨さを如実に物語っています。いつも犠牲になるのは子ども、女性、高齢者です。戦争になった時、ついに防衛省は「戦争の時、住民を避難させるのは「自治体」と明言しました。自衛隊はあなたを守れないのです。

鹿児島と沖縄・西表島を結ぶ南西諸島には百数十万人が暮らしています。避難には数カ月かかります。ミサイルによる攻撃には住民の犠牲は凶りしれません。

憲法九条の「日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する」。いかなる理由によっても決して戦争を引き起こしてはならないのです。

外交対話による東アジア地域の平和実現のために、この「県民の会」への多数の参集を呼びかけ、7月23日に会の発足をいたします。

2022年6月27日

「鹿児島を戦場にさせない県民の会」準備会

呼びかけ人 = 飯田泰雄（鹿大名誉教授）、木村 朗（鹿大名誉教授）、吉田健一（鹿大准教授）、三宅公人（馬毛島への米軍施設に反対する市民・団体連絡会）、大野登希子・有馬裕子（新婦人の会）、道免明美（アイ女性会議）、里山和子（あいら九条の会）、松下徳二（九条の会おおすみ）
関 誠之（奄美市議）、小川みさ子（鹿児島市議）、山口武文（東アジア反差別・平和研究会）、野呂正和（鹿児島に米軍はいらない県民の会）

戦争がそこまで



鹿児島を戦場にさせない県民の会 発足総会・講演会

7月23日(土) 14時

県労働福祉会館 7階ホール

鹿児島市鴨池新町 5-7 (県庁南 400m)

資料・講師交通費 1,000円

講師 山城博治 (沖縄平和センター顧問)



日米作戦・台湾有事「沖縄を戦場にさせない」超党派組織を、学者ら保守系にも賛同募って昨年12月発足した。

緊急声明は、南西諸島が攻撃拠点となることや、住民避難を自治体に任せる自衛隊の姿勢を批判。「政府が唯々諾々と米軍作戦に応ずるとすれば、県民を再び戦争の犠牲に差し出すことになる」と指摘した。

沖縄戦から77年、復帰50年。

これまで沖縄は朝鮮・ベトナム・イラク・アフガニスタンなど米国の戦争の出撃拠点でした。

次の台湾有事の戦争は鹿児島から台湾までの南西諸島がミサイルの飛び交う戦場となります。自衛隊は住民を守れません。避難する時間ありません。

戦争が始まったら何もかもおしまいです。

戦争を望まない県民の意思を示しましょう。

鹿児島を戦場にさせない県民の会

鹿児島市鴨池新町 5-7-601

事務局 吉田 健一

090-8141-4802

鹿児島を戦場にさせない県民の会 入会申込書

私は、上記の会に入会いたします。

2022年 月 日

なまえ _____

住所 〒 _____

アドレス _____

電話 _____

裏面もご覧ください